

2022	福祉プログラム開発と評価 ～サービス改善のための実践評価と実践研究の方法～	単位数	履修方法(授業形態)	配当学年
		2単位	SR(講義)	1・2年
		担当教員	大島 巖	

### ■授業のテーマ

社会福祉課題解決のために有効なサービスを生みだし、既存サービスをより質の高い、効果的なものへと改善するために必要な「プログラム開発と評価」の方法を学び、実践現場に適用する

### ■授業の目的

- ・社会福祉課題解決のために有効なサービスを生みだし、既存サービスをより質が高く、効果的なものへと改善するために必要な「(福祉)プログラム開発と評価」の科学的な方法を学ぶ
- ・受講生が関わる(あるいは関心をもつ)実践現場の課題を、「(福祉)プログラム開発と評価」の観点から整理して、ニーズ把握と分析、効果的なサービスモデルの開発と形成、効果をもたらす実践プロセスの抽出、成果と課題の分析等の観点から客観的に記述・言語化し、検証するための方法を身につける

### ■授業の到達目標

- ・社会福祉課題解決のために有効なサービスを生みだし、既存サービスをより質が高く、効果的なものへと改善するために必要な実践研究の意義と、方法論を「プログラム開発と評価」の観点から説明できる
- ・「プログラム開発と評価」の具体的な方法を、①ニーズ評価、②理論評価、③プロセス評価、④アウトカム・インパクト評価、⑤効率性評価、それぞれについて理解し、説明できる
- ・「プログラム開発と評価」の観点から、受講生が関わる(あるいは関心を持つ)実践現場の課題に当てはめて整理し、課題解決のための実践研究計画、評価計画を作成できる

### ■授業の概要

下記の【1-1】～【3】については、「スクーリング授業計画」の欄を参照してください。

- ・【1-1】スクーリング(オンデマンド):社会福祉課題解決のために有効なサービスを生みだし、既存サービスをより質が高く、効果的なものへと改善するために必要な実践研究の意義と方法論を「プログラム開発と評価」の観点から概説する。
- ・【1-2】スクーリング(対面:リモート又は会場):前項の質疑応答を行い、理解と知識を深める。受講生が関心を持つ実践現場の課題を共有し、「プログラム開発と評価」の観点から整理、検討するグループワークを行う。
- ・【2-1】スクーリング(オンデマンド):「プログラム開発と評価」の具体的な方法を、①ニーズ評価、②理論評価、③プロセス評価、④アウトカム・インパクト評価、⑤効率性評価、それぞれについてテキスト教材とオンデマンド授業で概説する。同時に①～⑤を、《1》制度の狭間問題への対応～効果モデルの設計・開発、《2》成果の上昇しない制度モデルの改善・再設計、《3》効果モデルの形成・改善、エビデンス生成、《4》海外で効果立証された EBP プログラムの導入という課題に適用させる方法を提示する。
- ・【2-2】スクーリング(対面:リモート又は会場):質疑応答を行い、理解と知識を深める。受講生が関心を持つ実践現場の課題解決にどのように活用すれば良いのか、受講生が関心を持つ実践現場の課題に当てはめて整理する。
- ・【3】スクーリング(対面:リモート又は会場):受講生が関心を持つ実践現場の課題に当てはめて、その課題解決に有効な研究計画・評価計画を作成する。スクーリングでは、その研究計画・評価計画を全体共有して意見交換する。

## ■研究の視点

社会福祉課題解決のために有効なサービスを開発したり、既存サービスの改善を徹頭徹尾追求することが、実践研究にとって重要であること

## ■スクーリングの事前課題（学修時間の目安：48時間）

下記の【1-1】～【3】については、「スクーリング授業計画」の欄を参照してください。

- ・【1-2】のスクーリング（対面：リモート又は会場）では、【1-1】スクーリング（オンデマンド）のテキスト教材、事前配布教材、オンデマンド教材を良く咀嚼し、質疑応答、受講生間の意見交換ができるように準備しておくこと。同時に、受講生が関心を持つ実践現場の課題に当てはめて、「プログラム開発と評価」の観点から、その課題と課題解決方法をどのように「プログラム開発と評価」の視点から整理し、2,000字程度（A4用紙2～3枚）にまとめて、事前提出をする（レポート課題1に該当）。その内容をグループワークで検討する。
- ・【2-2】のスクーリング（対面：リモート又は会場）では、【2-1】スクーリング（オンデマンド）のテキスト教材、事前配布教材、オンデマンド教材を良く咀嚼し、質疑応答、受講生間の意見交換ができるように準備しておくこと。また、受講生が関心を持つ実践現場の課題に当てはめて、「プログラム開発と評価」の観点から、その課題と課題解決方法に取り組んだら良いのか、2,000字程度（A4用紙2～3枚）にまとめて事前提出をする（レポート課題2に該当）。その内容をグループワークで検討する。
- ・【3】のスクーリング（対面：リモート又は会場）では、受講生が関心を持つ実践現場の課題に当てはめて、「プログラム開発と評価」の観点から、その課題と課題解決方法に取り組んだら良いのか、研究計画・評価計画として2,000字程度（A4用紙2～3枚）にまとめて、事前提出をする（レポート課題3に該当）。その内容を、グループワークで検討する。

## ■スクーリング授業計画（状況に応じて会場ではなくリモートで実施します）

	授業の内容	授業の方法
1	【1-1】サービス改善のための実践評価と実践研究の方法（総論）	オンデマンド授業
2	【1-2】上記【1-1】オンデマンド・スクーリングに対する質疑応答と、受講生相互の意見交換を行う	対面（リモート又は会場）授業
3	【1-2】受講生が関心を持つ実践現場の課題を共有し、「プログラム開発と評価」の観点から整理し、グループワークで検討する	対面（リモート又は会場）授業
4	【2-1】社会課題解決に役立てる「プログラム開発と評価」の具体的な方法～評価5階層を中心に	オンデマンド授業
5	【2-2】上記【2-1】オンデマンド・スクーリングに対する質疑応答と、受講生相互の意見交換	対面（リモート又は会場）授業
6	【2-2】受講生が関心を持つ実践現場の課題に当てはめて、「プログラム開発と評価」の観点から、その課題と課題解決方法に取り組んだら良いのか整理し、グループワークで検討する	対面（リモート又は会場）授業
7	【3 その1】受講生が関心を持つ実践現場の課題に当てはめて、その課題解決に有効な研究計画・評価計画を作成する。その研究計画・評価計画を全体共有して意見交換する	対面（リモート又は会場）授業
8	【3 その2】受講生が関心を持つ実践現場の課題に当てはめて、その課題解決に有効な研究計画・評価計画を作成する。その研究計画・評価計画を全体共有して意見交換する	対面（リモート又は会場）授業

※スクーリング（対面：リモート又は会場）日は、担当教員と調整のうえ決定いたします。

## ■スクーリングの事前課題

課題 1 (事前)	【1-2】スクーリング（対面：リモート又は会場）の事前課題。関心を持つ実践現場の課題に当てはめて、「プログラム開発と評価」の観点から、その課題と課題解決方法を「プログラム開発と評価」の視点から整理し、2,000字程度（A4用紙2～3枚）にまとめて、スクーリング日の1週間前までに提出。
課題 2 (事前)	【2-2】スクーリング（対面：リモート又は会場）の事前課題。関心を持つ実践現場の課題に当てはめて、「プログラム開発と評価」の観点から、その課題と課題解決方法にどのように取り組んだら良いのか、2,000字程度（A4用紙2～3枚）にまとめて、スクーリング日の1週間前までに提出。
課題 3 (事前)	【3 その1】スクーリング（対面：リモート又は会場）の事前課題。関心を持つ実践現場の課題に当てはめて、「プログラム開発と評価」の観点から、その課題と課題解決方法にどのように取り組んだら良いのか、研究計画・評価計画として2,000字程度（A4用紙2～3枚）にまとめて、スクーリング日の1週間前までに提出。
課題 4 (事後)	あなたが関わる（あるいは関心をもつ）実践現場の課題に対して、福祉プログラム開発と評価の方法をどのように活用したら良いのか、評価学のキーワードを用いて説明してください。「実践現場の課題」に当てはめた時に、新たに明らかになったこと、学んだこと、今後他の課題が発生した時に適用できそうなことを、できるだけ具体的に記述してください。2,000字程度。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

## ■アドバイス



【1-1】のオンデマンドスクーリングやそのテキスト教材、事前配布教材等を参考にして、まとめる。



【1-2】スクーリングで共有した実践現場の課題について、「プログラム開発と評価」の観点から整理し、検討した内容を踏まえて、まとめる。



【2-1】のオンデマンドスクーリングやそのテキスト教材、事前配布教材等を参考にして、まとめる。



オンデマンド授業、提供した教材、スクーリングでの相互討論の結果を踏まえてまとめてください。

## ■評価の方法・基準

スクーリング時の参加度30%、プレゼンテーション30%、研究計画・評価計画のレポート40%とします。

## ■参考文献（\*印=大学から送付される必読図書）

- \* 1) 源由理子、大島巖編（山谷清志監修）(2020). プログラム評価ハンドブック～社会課題解決に向けた評価方法の基礎・応用. 晃洋書房
- \* 2) 大島巖、源由理子、山野則子、贅川信幸、新藤健太、平岡公一編著（2019）. 実践家参画型エンパワメント評価の理論と方法～CD-TEP法：協働によるEBP効果モデルの構築. 日本評論社.
- 3) ピーター・H・ロッシ、マーク・W・リプセイ、ハワード・E・フリーマン（大島巖、平岡公一、森俊夫、元永拓郎 翻訳）(2005). プログラム評価の理論と方法～システムティックな対人サービス・政策評価の実践ガイド. 日本評論社.
- 4) 大島巖（2016）. マクロ実践ソーシャルワークの新パラダイム～エビデンスに基づく支援環境開発アプローチ：精神保健福祉への適用例から. 有斐閣.
- 5) 古屋龍太、大島巖編著（2021）. 精神科病院と地域支援者をつなぐ みんなの退院促進プログラム～実施マニュアル&戦略ガイドライン. ミネルヴァ書房.